

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第6回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成22年11月8日（月）午後6時30分 ～午後8時30分
開 催 場 所	中部地区会館407会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：足立幸夫、榎本茂子、小川榮子、栗原誠、重野吉幸、関根明美、 高橋眞澄、森林育代、渡辺真紀子 欠席者：東宮玲子 事務局：地域振興課長、地域振興課主査、地域振興課主事
報 告 事 項	1 第5回男女共同参画推進市民委員会の会議録について 2 第5回村山デエダラまつりについて 3 その他
議 題	1 情報誌「YOU・I」第23号の編集について 2 女性センター視察について 3 男女共同参画推進状況調査について 4 第11回YOU・Iフォーラムの開催について 5 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	第6回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会 議題1 情報誌「YOU・I」第23号の編集について ・イクメンアンケートの集計結果の考察は、育児の相談にのることが重要な要素であることや育児休業取得への考え方について着目する。 ・次回開催通知とあわせ、情報誌（案）を送付し、確認後、12月1日に発行する。 議題2 女性センター視察について ・次回会議までに、清瀬市男女共同参画センターへの質問を考える。 ・視察候補日は、平成23年1月18日（火）又は25日（火）午前中とし、事務局で清瀬市と日程を調整する。 議題3 男女共同参画推進状況調査について ・次回会議までに各自意見をまとめる。 議題4 第11回YOU・Iフォーラムの開催について ・テーマ（案）は、「イクメンはモテる！ー仕事も育児も人生も、笑って楽しむパパになるうー」とし、講師2人に確認をする。 議題5 その他 ・第7回会議 12月13日（月）午後6時30分から開催する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発信者) ○印：委員 ●印：事務局	第5回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会 議題1 情報誌「YOU・I」第23号の編集について ○ どこまでやれば「イクメン」と「認められる」のかを特集の柱とし、先日のデエダラまつりでイクメンに関するアンケートを実施した。 ーアンケートの集計結果を報告ー ○ イクメンをどう評価するか。日々の育児は、帰宅時間等の関係でできたりできなかったりするが、アンケート結果から妻が夫をイクメンと評価するには、「育児の相談にのる」が重要ポイントということが分かった。 ● 実働をしてもらえることも大事だが、それ以上に相談にのってもらいたいということを情報誌に載せてもらえればいいのか。 ○ アンケート結果の考察を2～3頁に掲載したいと考えている。 ○ イクメンの国際的定義は、何日間でも育児休業を取得し、育児の役割

を担うということだと思う。食事を作る、お風呂に入れるということもイクメンの重要な部分だとは思いますが、本格的に育児休業を申請し取得するという比率がどうなのだろうか。今回のアンケートの項目でもイクメンの条件として「育児休暇をとる」という回答欄を載せているので、そこにも焦点を当て、言及したらどうか。

また、表紙の対談についてだが、名前を一文字で称するのではなく、苗字で表したほうがいい。

- 苗字で表すようにする。
- 市内中学生で、いっしょに読もう新聞コンクールで特別賞（対話賞）を受賞した。選んだ記事は「増えるか イクメン」で、この年代にもイクメンへの関心があることを情報誌に掲載できたらと思っている。
- 紹介でもいいから載せられたらいいと思う。
- ちょっとした紹介の記事なら掲載できるスペースはあると思うので、記事を作成する。
- 原稿については、中学校に確認を取りたいと思う。
- 発行は12月1日を予定し、最終的確認用の情報誌（案）は次回開催通知とあわせ送付するので、確認していただきたい。

#### 議題2 女性センター視察について

- 資料3を基に、事務局から説明。  
－質疑なし－
- 清瀬市男女共同参画センター視察の日程を決めていただきたい。  
－調整－
- 平成23年1月18日（火）又は25日（火）のいずれかで視察できるように事務局で清瀬市と調整する。また、質問内容については、資料を参考に、次回会議までに考えてきてもらいたい。

#### 議題3 男女共同参画推進状況調査について

- 今回は目標1及び目標2について、意見をいただきたい。
- 自己評価で「C」がついているところはどうすることもできないのか。
- 実施する必要があることを意見として出してもらいたい。
- なぜ実施できないのか、何が支障なのかを知りたい。
- そこまで調査をしていない。平成21年度実績の自己評価となっていることも理解していただきたい。そのため、平成22年度に既に実施している事業もある。
- 自己評価が「C」で、次年度以降実施区分が研究中となっているのは、どうしたいのか。
- まだ検討段階にも至っていないということである。
- それはどうしてなのかが気になる。
- やらなければいけないと認識されていない。優先度が低い。
- 実施したから「A」をつけていても、結果として市民のためになっているのかは疑問である。
- 年度ごとの比較は出るのだろうか。
- 今年度がスタートラインで、今後継続して毎年調査をする。22年度のゼロの時点では、実際どれくらいのことを実施しているのかを、今回調査したと考えてもらいたい。
- 計画なので、事業概要は「〇〇を実施する」とあるが、評価は実施したことがAなのか、実施し何かが起こったことが「A」としているのかは、評価が分かれるところだと思う。しかし、調査結果を見る限りで

は、実施したら「A」としていると思うので、どう評価したらいいのか迷うところである。主管課の評価基準をしっかりと決めていないと難しい。

- 効果や結果を入れてもらいたい。なぜ自己評価が「A」で継続なのかといったとき、こういう効果があったからというのがあれば納得できる。
- 一括して地域振興課で評価することはできないだろうか。一元化されていないと、やりっぱなしという印象になってしまう。
- それぞれの課の仕事というのは、他の課からは見えないところがあるので難しい。
- 今回の評価方法では、何が達成しているのかが曖昧だと思う。そこをきちんと明確にしたほうが分かりやすい。
- 今回の調査も一から作成したので、来年度以降推進状況調査を実施するに当たって改善する点があると思う。
- 評価基準は変えるべきだと思う。何も実施していないなら「C」、実施はしたが顕著な効果が表れていないものを「B」、実施して効果も表れてきているなら「A」といったように、具体的な評価基準があると所管課も評価をしやすく、委員会としてもチェックをしやすい。調査のための調査ではなく、良くしていくための調査だと思うので、評価の根拠があり、具体的にどうしていくかが必要である。そうしないと、せっかく評価しても来年度以降継続してどう発展していくのか見えてこない。
- 目的・目標をはっきりすべきである。市民のためになっているのかどうかを評価し、次にどうしたらいいかがあるのではないか。関心度を高めるための活動をしていかなければならない。例えば市役所行ったら、市の職員全員がイクメンのバッジをつけていると、来庁した市民も「何だろう？」と思い、意識啓発につながる。きっかけはそこから始まるのではないか。目の触れるところに、常にあるということから始めていけばいいのではないか。
- 来年度の調査時には、もう一度調査項目を立て直し、評価基準も練り直したい。今回、報告書の意見の一つとして入れてもらえればと思う。
- 今回は、評価の根拠を基に、疑問に感じたことなどを意見として挙げればいいのではないか。
- 事業名、事業概要に対して、具体的施策としてこういうこともできるのではないかという意見も必要だと思う。
- どのように公表していくのか。
- 現時点での考えは、意見を取りまとめた総論を、市報で発表したい。また、全部の調査結果に対する意見は、各課にフィードバックする。
- 第1章から第4章までであるので、分担したらどうか。
- 全体を通し、各自気になったところだけチェックすればいいのではないか。全部に意見があるわけではない。
- 成果と課題を明記し、自己評価をしたら分かりやすいのではないか。そうすると次はこうしていくということが見えてくる。
- 今回の調査が基準となるので、次のとき、どういう風に反映されたかが見えるように、連続性は持たせてほしい。
- 来年度の調査票に反映したいと思う。
- 分担制ではなく、各自それぞれ見られる範囲でお願いします。
- 重点事項として挙げられればいいのかと思う。
- 次回会議までに各自意見をまとめてきてもらいたい。

議題4 第11回YOU・Iフォーラムの開催について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催時期も迫っているが、テーマが未だ保留となっている。前回会議で出た希望を講師派遣会社に伝えたところ、渥美さんから「父親の子育て参画とワーク・ライフ・バランス」というテーマでどうかという返事であった。しかし、テーマは引きつけられる言葉がほしいと思い、逆にこちらから案を提示したいと考えている。「イクメンはモテる！ーワーク・ライフ・バランスで笑って楽しむパパになろうー」というのはどうだろうか。</li> <li>○ 渥美さんと安藤さんの統一テーマか。</li> <li>● 2人の統一テーマである。安藤さんの講演テーマで「仕事も育児も人生も、笑って楽しむパパになろう」がある。また、渥美さんは「ワーク・ライフ・バランス実践中ーイクメンはモテる！ー」というテーマで講演実績があるので、組み合わせたものを提案した。</li> <li>○ モテるという意味は、仕事でも家庭においてもということか。</li> <li>● 結婚を控える女性に、イクメンは重要ポイントとも言われている。</li> <li>○ タイトルは引きつけることが大事だと思う。</li> <li>○ ワーク・ライフ・バランスという言葉が難しい。</li> <li>● もともとは「仕事も育児も人生も」であった。</li> <li>○ そのほうが分かりやすい。ワーク・ライフ・バランスは講演を聞いた人が「何だろう」と思い、そこから知ってもらえればいいのではないか。タイトルは一般的に分かりやすいほうがいい。</li> <li>○ 「人生も」と入っていると、引きつけられる。</li> <li>○ ワーク・ライフ・バランスもいれたいが、「なにそれ？」と聞いてしまうのではないか。</li> <li>● 渥美さんの講演の中で、ワーク・ライフ・バランスが大事という話をしてもらえれば、結果的に参加者に伝わるのでいいと思う。</li> <li>○ 「イクメンはモテる！ー仕事も育児も人生も、笑って楽しむパパになろうー」で決定していいか。</li> <li>ー異議なしー</li> <li>● 講師派遣会社を通し、講師2人に確認をする。</li> </ul> <p>議題4 その他（次回会議開催日程）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第7回会議は12月13日(月)午後6時30分から開催する。</li> </ul>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 [ ]	傍聴者： 0 人
-------------	---	----------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： ) <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： )
--------------	---

庶務担当課	市民生活部 地域振興課 (内線： 225 )
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)